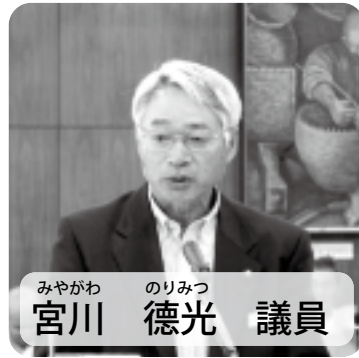


町の将来像

「自然が元気」へ町全体で

当然やるべき課題



みやがわ のりみつ 議員 宮川 徳光

で取組まなければその効果は期待できないと思うが、如何か。

答 大西町長

町として、当然、やるべき課題だと思っている。

問 町の将来像「人が元気、自然が元気、地域が元気 黒潮町」の「自然が元気」の現に向けての再質問。前回、自然環境の現状認識、川や海の水質汚染の原因の大部分が生活排水との認識も同じであった。

それらを踏まえ、生活排水への対策として、「合成洗剤などの化学物質」の使用を止めて「環境にやさしい物質」への変換をするためには、住民の知識や意識の向上は必要不可欠であり、かつ、町全体

の理想定を受け、財源、あるいは人的資源を防災へ向けて傾斜配分している上、全職員が防災対策の業務も担いながらやっている状況なので、もう少し業務全体が落ち着くまで、少しの時間を頂きたい。こういう状況だが、現在、既に活動している団体等の芽を絶対に止めないようにしっかりと支援をしていく。

問 生活排水への対策として、マイエンザ(※)の普及に、町全体で取組むべきと考えますが、如何か。

答 松田住民課長

町内には、EM(有用微生物群)と並行してマイエンザも研究しているこうとしているグループがあるので、その方たちを中心として講演会の先生に再度お願いするなど、啓発発信の協議をしていきたい。

※ヨーグルト、ドライイースト、納豆、三温糖と全て食べ物为原料として作る微生物活性酵素。洗剤や肥料として使え、水質浄化の効果もある。



マイエンザ

産業振興

特産協の
事業展望は
地産地消も
進める

問 平成24年度の利用状況と収支、及び今後の事業展開は。

答 森下産業推進室長

利用状況は、サトウキビの加工は前年より20t多い84t余り。ラッキョウは、昨年より1.4t多い約2.3tを農家より仕入れて加工し、販売した。

収支は、売上総額が前年度より228万円増の1178万円強。事業経費は、ふるさと雇用事業費と緊急雇用事業費を充てた結果、営業利益は7万円強の赤字に。雇用関係では、4名、6名のパート雇用に531万円を支出し、少額だが雇用創出が図られた。

今後の事業展開は、地元的一次製品の加工・販売を基本に、ラッキョウや黒砂糖商品及び地域の特産品を詰め合わせたギフト商品の販売促進に加え、学校給食でも、給食センターとも地産地消関連の加工品の協議を進めながら、納品を計画している。

また、経営については、現在、第三セクター設立準備会のオブザーバーが経営診断を実施し、今後の具体的な経営計画の詰めをしている。

特産品加工場



只今、らっきょうの袋詰め作業中